

LORC 2005年6月スケジュール

3日(金) 教育研修WG第2回研究会

時間: 11:00 - 14:00

会場: キャンパスプラザ京都 6F 龍谷大学サテライトキャンパス講義室

テーマ: 「熊本市における研修実施に向けて(継続協議)」

1. 熊本市の市民協働政策および研修方針について
2. LORCの市民協働研修の基本的な考え方について
3. 熊本市における試行の可能性について
4. 熊本市における研修の実施に向けた基本的条件

10日(金) 第3回運営会議

時間: 10:00 - 12:00

会場: 龍谷大学深草学舎 紫光館 3F 研究交流室

- テーマ:
1. 中間評価 報告書作成の分担について
 2. RAの採用方針について
 3. ブックレット第2号以降の刊行について
 4. その他

10日(金) 地域公共人材像WG第1回研究会

時間: 14:00 -

会場: 龍谷大学深草学舎 紫光館 3F 研究交流室

テーマ: ディスカッション・テーブル(25,26日)の議論内容及びプロセス設定

24日(金) エクスカーション(LORC ディスカッション・テーブルに向けた現地視察)

視察先: 京都府北桑田郡美山町(かやぶき民家保存活動)

京都市景観・まちづくりセンター

25日(土) 第1班第1回研究会

時間: 10:30 - 12:00

会場: 龍谷大学深草学舎 紫英館 2F 第1共同研究室

テーマ: 2005年度研究活動について

25日(土) 第4班第2回研究会

時間: 10:00 - 12:00

会場: 龍谷大学深草学舎 21号館 408号室

- テーマ:
- 1) 第4班全体の今年度の活動についての確認
 - 2) 各国での取り組みについての協議(分権化のアジア・アフリカ6ヶ国比較研究に向けて)

25日(土) LORC ディスカッション・テーブル第1日

時間： 13:00(受付開始) - 17:00(終了後レセプションあり)
会場： 龍谷大学深草学舎 21号館 402講義室
テーマ： 地域公共人材像ワーキング・グループについて

26日(日) LORC ディスカッション・テーブル第2日

時間： 10:00 - 16:30
会場： 龍谷大学深草学舎 21号館 402講義室
テーマ： 1) 政策デザインワーキング・グループについて
2) 教育研修システムワーキング・グループについて
3) 全体のまとめ

各班活動状況

第1班 RA 辻本 乃理子

5月3日から11日まで、LORC 研究員と PD・RA 総勢 11 名で英国リバプール調査が実施されました。1班より3名が参加されました。今後の予定として、2005 年度第1回研究会を6月25日に開催します。主に第1班の2005 年度の研究活動について議論します。また、今までの研究活動の成果を公表するため、1月28日に三重県にて開催されました LORC・東京農工大 COE・三重県共催のシンポジウムの講演をもとにしたブックレット出版の準備をすすめています。

第2班 RA 田村 暉

4月16日(土)に2005 年度第2班の第1回研究会が開催され、今年度から発足した教育・研修ワーキング・グループ(WG)に関する設定、募集の仕方、メンバー構成などの枠組みについて WG の活動及び2班の研究活動の役割分担について 後期から試行する熊本市における研究の実践について、が議論された。そして、5月23日(月)に熊本市内で、教育・研修システム WG の第1回会合を開催し、熊本市職員と WG のメンバーで熊本市における研修実施に向けての協力体制及び運営体制についての基本的枠組みについて協議した。具体的な内容については、次回以降に協議することが確認された。次回の教育・研修システム WG は、6月3日(金)に開催される予定。

第3班 RA 田村 暉

* 第3班は現在実質的な研究活動は行っておりませんが、昨年度から継続の活動が多少残っておりますので、昨

年度担当 RA の田村より報告を致します。

今年度の第3班の活動は、2年間の研究活動の成果をまとめ、提言書として文科省に提出することである。提言書自体は、数十ページ程度の予定だが、その詳細な説明については書籍として後半に出版化する。また、認証評価システムに関するブックレットを近々出版する予定である。

第4班 RA 新井 健一郎

4月22日に開催された年度初頭の打ち合わせ会議(第1回研究会)では、班横断的なワーキング・グループを立ち上げて研究を進めていくという LORC 全体の今年度の活動方針や、予算執行のありかたなどについて、報告および協議がなされた。アジア・アフリカ6ヶ国の分権化比較研究を軸とする第4班の今後の研究活動については、当該各国の研究者を交え、6月25日午前に開く第2回研究会でその進め方や内容について議論をする予定。

プロジェクト担当 RA 金 湛

4月18日(月)東京農工大学(小金井キャンパス)で、東京農工大学 COE と今後の協力体制および研究方向についての打ち合わせ会議を行った。三重県の事情により、東京農工大学 COE、龍谷大学地域 ORC、三重県の三者協力体制が大きく変化し、今後の研究内容および対象地域の選択が変化せざるを得ない状況に追い込まれた。この変化を受けて、東京農工大学 COE と龍谷大学地域 ORC の協力体制を強化し、共同研究の道を探ることが決定された。東京農工大学 COE と龍谷大学地域 ORC は

それぞれ自然科学系と社会科学系に属するため、研究内容に直接的な繋がりはないが、「生存科学」というキーワードのもとで地域に密着した研究を、互いに補いつつ進めていくことは、両プロジェクトにとって有意義なものになると考えられる。具体的な活動に関して、今年度は共同シンポジウムを2回計画しており、一回目は今年の9月に

設定する。それまでに、各研究者が話し合った上で共通性のある研究テーマを決定し、必要な人材を巻き込みつつ研究体制を整えていく。

また、6月10日に斎藤副センター長をリーダーとする地域公共人材像ワーキング・グループが第1回の会議を開く予定である。

LORC information

渡英メンバーがイギリス調査から無事に帰国しました

先月初め、ゴールデン・ウィークの期間を使って（5月3日～14日）LORCから総勢11名がイギリスのリバプールを中心に数ヶ所を訪問し、主に Local Strategic Partnership（LSP）と地域公共人材にかかる大学院教育について調査を行いました。現地では自治体職員や地元議員、チャリティ団体や大学関係者など、地域のガバナンスで活躍するさまざまなステイクホルダーから、それぞれの視点でとても興味深いお話を伺うことができました。また、イギリスの動きはLORCで今後も引き続き研究されることが予想されますので、そのための現地のネットワーク作りの点からみても、今回の訪問は大変有意義なものになりました。

渡英メンバーのひとり、LORC副センター長の斎藤先生が、今回現地でお世話になった皆様方にお礼の意味も含めて、debriefing paper（簡単な報告書）を作成されました（すでに現地の皆様には送信済みです）。LORCのウェブサイトにもアップしましたので、皆様是非一度ご覧下さい（http://lorc.ryukoku.ac.jp/docs/debriefing_paper_uk_2005.pdf）。なお、日本語バージョンも近日中にアップしますので楽しみに。



3つのワーキング・グループ（WG）が立ち上がりました

先日からメーリング・リストでもたびたびお知らせしておりますが、本年度より班横断型の3つのWG（「地域公共人材像」「教育研修システム」「政策デザイン」）を立ち上げることになり、これにご協力頂くメンバーの選定が5月の運営会議で決定致しました。今後は既存の4つの班と今回の3つのWGの2段体制で研究活動を進めていくこととなります。研究員の皆様には、これまで以上にご協力をお願いすることになるとは思いますが、今後ともご助力の程、何卒宜しくお願い致します。

LORC ディスカッション・テーブルが開催されます

上記の今月のスケジュールでもお知らせしておりますように、6月25,26日(土、日)に、LORC ディスカッション・テーブルが開催されます。これは、この度発足した3つのWGについて、2月の合同研究会での議論も踏まえて、今後の議論内容とそのプロセスを研究員の皆様で議論し共有頂く大変重要な会合です。ご多忙のことは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参加を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。なお、先日お知らせしたとおり、ご参加頂ける方は、6月10日(金)までにPDの場 (matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp) までご連絡下さい。

第4班に4人の海外研究員が加入されました

本年度から、4名の海外の研究者が第4班の研究員として新しく加入されました。昨年オランダで開催された国際シンポジウムの際に、ゲストとして招聘させて頂いた方々です。今後は研究員として、LORCの活動にご貢献頂くことになりました。

Dr. Frederick Golooba-Mutebi (Makerere Institute of Social Research, Makerere University, Uganda)

Dr. K. N. Harilal (Centre for Development Studies, India)

Prof. Brij Maharaj (Department of Geography, University of KwaZulu-Natal, South Africa)

Dr. Deddy Tikson (Associate Professor, Department of Public Administration, Hasanuddin University, Indonesia)

第4班から最初のワーキング・ペーパーが発行されました

初年度に第4班が「参加型貧困調査とローカル・ガバナンス」をテーマに開催した研究会で、講演者として招聘した Dr. Charles Ehrhart のペーパー「Touching the ground: New directions and practical experiences in participatory policy research」が、LORC ワーキング・ペーパーの第1号として発行されました。LORC のウェブサイトでご覧可能です (http://lorc.ryukoku.ac.jp/docs/wp/lorc_wp1_ehrhart.pdf)。

地域ガバナンスシステム・シリーズ ブックレットの第1号が出版されました。

LORC の研究成果を広く一般に公開していく方策のひとつとして、ブックレットをシリーズ化して随時出版していくことになり(地域ガバナンスシステム・シリーズ) その第1号が、第2班の昨年度までの成果を踏まえて土山先生を著者として出版されました。研究員の皆様には1部ずつ郵送させて頂きませんが、さらに購入をご希望の方は直接公人の友社(TEL:03-3811-5701、FAX:03-3811-5795)までお問い合わせ下さい。

土山希美枝 (2005) 『地域人材を育てる自治体研修改革』 公人の友社、ISBN: 4-87555-901-1
定価(本体900円+税)

プロジェクト担当 RA の金湛さんが LORC を退職されました

昨年度第4班 RA として加入され、今年度はプロジェクト担当 RA として勤務されていた金さんが5月末で退職されました。今年度から発足したアフラシア平和開発研究センターの PD として、6月から勤務されています。LORC にとっては痛手ですが、金さんにはとても良いお話なので、早く送り出したいと思います。金さんどうもお疲れ様でした。新天地でもがんばってください!!

LORC 資料室内文献紹介

新年度を迎えまして、資料室にも新たな文献が少しずつではありますが入ってきております。本年度も少しずつ資料の拡充に努めてまいります。皆様からも有益な文献・映像資料などの情報をお寄せ下さい。ご協力宜しくお願い致します。

神野直彦、澤井安勇（編著）『ソーシャル・ガバナンス：新しい分権・市民社会の構図』（東洋経済新報社、2004）

D.ヘントン、J.メルビン、K.ウォレシュ（著）小門裕幸（監訳）榎並利博、今井路子（翻訳）『社会変革する地域市民：スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』（第一法規、2004）

吉田忠彦（編著）『地域とNPOのマネジメント』（晃洋書房、2005）

Box, R. C. (2005) *Critical Social Theory in Public Administration*, M. E. Sharp: New York

Loughlin, J. (2001) *Subnational Democracy in the European Union: Challenges and Opportunities*, Oxford University Press: Oxford

雑誌の情報は以下のサイトへ！

ガバナンス

http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/gover/index_gover.html

日経グローバル

<http://www.nikkei.co.jp/rim/>

掲示板

今月は、第2班研究員の松浦さと子先生のお知らせを2つお届けします。

その1：「Volo」の記事

先生の記事「緊急提言 NHK受信料をコミュニティの市民放送活動に分配して！」が、大阪ボランティア協会発行の「Volo（ウォロ）」2005年4月号に掲載されています。

その2：朝日新聞の記事

2005年5月7日（朝刊）に「地域NPO放送に分配を」という表題で、先生の記事が掲載されています。

皆様、是非ご覧下さい！！

新聞・雑誌などの記事について

新聞、雑誌などにご自分の記事が掲載された時は、ぜひLORC支援室的場（matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp）までお知らせ下さい。こちらでも出来るだけピックアップするようにしていますが、すべてをカバーするのは困難ですので、宜しくお願い致します。

新コーナー！！土山先生のアイルランド滞在記

昨年度まで第2班の代表を務められ現在アイルランドの Trinity College Dublin に客員研究員として赴任しておられる土山希美枝先生に、このたび無理をお願いしてコラムをご担当頂くことになりました。内容は完全に先生任せです！！気楽に書いて頂こうと考え、あえてアカデミックなものをお願いしていません。それでは、早速お楽しみ下さい！！

アイルランドと私(1) ----- 郵便配達と私

早いもので、国外研究員としてアイルランド・ダブリンに来てから3ヶ月になりました。異文化のなかでの生活であることに加え、もともとの私の性格とがあいまって、毎日が騒動です。忘れるのはもったいないので日記をつけているのですが、このたびニューズレターでその片鱗を紹介させていただくことになりました。どうぞよろしく。

アイルランド・ダブリン暮らしはたいへん気に入っています。いろいろ、ホントにイロイロありますが、基本的に人々は親切でおおらか。いろんな意味でおおらかです。

1ヶ月もかけてようやく部屋が決まったあと、実家にあずけておいた小荷物を SAL 便で送ってもらいました。ある日、部屋を出て洗濯物を地下のコインランドリーにしかけて買い物に出ようとすると、郵便箱に「不在なので荷物を持ち帰りました」という案内が。ほんの数分差で逃してしまったようで、残念と思いながら案内を確認すると、いくつか方法が書いてあります。(1) 指定の集配所に取りに来る、(2) 日付を指定して再配達する、(3) 届ける場所を変更して再配達する。なかなかちゃんとしてるなぁ、と意外にも安心して、よく読むと。

- (1) 指定の集配所に取りに来る。200万都市・首都ダブリンで2カ所。しかも指定されてて、とても遠い。交通も不便。それはまあよいとして、「この案内がついてから、7営業日以降であれば受け取れます」週末を挟むと、約10日後？ 国内便もそうなの？ 生もの入ってたらどうするの？ そうか、そういう物流じゃないのか。
- (2) 日付を指定して再配達「一般のオフィスアワーに届きます」9時～17時で指定不可とは、拘束時間が長いなぁ。共働きのご家庭はどうするんだろう？
- (3) 場所を変更して再配達。そうすると日付の指定はできません。しかも有料、約6ユーロ。携帯のSMS(携帯どうしのみメールサービスのようなもの)で申し込みでき、伝票番号の送信 再配達方法の指定 再配達料金を支払うためのクレジットカード番号の送信、とやりとりが進みます。カード番号入力を促す先方からのSMSには、「このやりとりはセキュリティで保護されています」と書いているのですが、ただの携帯メールのやりとりにしか見えず、どこがどうセキュリティ保護済みなのかはまったく不明。別の機会には、SMSのやりとりの途中で所用が入って中断し3時間後に送信したのですが、やりなおしを要求されるでもなくそのまま進んでいきます。ほんとにこのシステム、大丈夫？

宅配便各社と郵便局の競争の結果、細かな時間指定、冷蔵冷凍配達、無料再配達という充実のサービスに慣れ親しんだ身には、(1)～(3)の選択肢はなかなか厳しい内容ですが、しかし、よく考えるとたしかに再配達はコストがかかるもの。そうしたコストを実は内包しながらサービスとして転嫁するから、日本は高コスト体質になっているんだなぁ、と自らの慣習を反省しつつ肯定方向で解釈をしようと思いました、が。しかし、しかし料金の6ユーロは800円くらい(現在1ユーロ約135円、春先は140円以上)、800円くらいといえば関西から関東まで小さいサイズの宅配便が送れる料金。やっぱり、これで納得しちゃいかん！ しかも後日、小包かどうかに限らず、アパートのあまり大きくない郵便受けに入らないものはすべてこの再配達の対象になることがわかりました。日中留守にしてたら、ちょっと大きい郵便配達があるたびに800円。アイルランドのみなさん、もう少し厳しく欲張りな消費者になってください。私の郵便物のために。

いえ、でも、気に入ってるんですよ、アイルランド。ほんとですよ。それではまた次回。

LORC 研究員のひとこと（紹介）

今月の研究員紹介は第 3 班研究員の早田幸政先生です。

早田幸政 氏
金沢大学 大学教育開発・支援センター 教授

新たな学年暦がスタートし、私も「日本国憲法概説」の講義を開始した。今、アジア各国で「反日」の嵐が吹き荒れているが、国内でこれに反発し、政治家の発言はもとより、マスコミ各社の報道姿勢に「国粹主義」的傾向が見られる点は気がかりである。「靖国問題」や集団的自衛権に対する対応一つとっても、現政権の目指す方向性は明らかである。今回の講義では、以前にも増して、平和の尊さや民主政の重要性を強調したい。それにしても、学生たちが、こうした主張にどれだけ共感してくれるか心配ではある。

編集後記

日が長くなり、南面ベランダから差し込む日差しが短くなりました。街行く人々の服装が軽快で明るい色目になってきて、夏がすぐそこまで来ていることを日々の生活の中で感じます。都市に居住していても、季節の移り変わりに鈍感にならないようにしたいものです。(N)

今年度もよろしく願いいたします。(K)

エクササイズのつもりで始めた自転車にますますのめりこんでしまい、まだ 2 ヶ月しか経たないのに、2 台目を購入しようかなと考えています(笑)(H)

6 月 1 日に私は PD 研究員としてアフラシア平和開発研究センターに移ることになりました。LORC にいる間、皆さんにいろいろ教えていただき、大変有意義な一年になりました。所属が変わりますが、皆さんと築いた信頼関係をいかし、お互いに協力して仕事をしていきたいと思っていますので、これからもよろしく願いいたします。(Z)

本年度最初の Newsletter いかがでしたか？ 4 月 5 月の合併号ということで、少々長くなりました。本年度もどうぞ宜しくお付き合い下さい。(T)

LORC Newsletter Vol.11, 31 May 2005

編集・発行：龍谷大学地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター（LORC）支援室

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

TEL: 075-645-2312 FAX: 075-645-2240

E-mail: matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp (PD 的場) WEB: <http://lorc.ryukoku.ac.jp/index-jp.html>